

2025年度事業計画

一般財団法人日本ドッジボール協会

2024年度事業状況：国内

◎国内の活動規模は拡大

- 登録競技者※中学生以上
4119名（中学生1844名）

中学生新規登録+559名

- D-1/D-1G 626チーム
（-5チーム）
- S-1/S-1G 294チーム
（+66チーム）

- 公認審判員(4726名)
 - A級 38名
 - B級 394名
 - C級 4294名

前年+290名

- 公認指導者(3393名)
 - A級 1052名（登録完了者）
 - B級 1002名
 - C級 1339名

スポーツドクター1名

前年+196名

❖ 訂正：事前の資料では進級者が重複しておりました。

2024年度事業状況：海外

◎国際大会ではマルチ種目に加え、シングル種目でも代表チームが活躍

EAST ASIAN DODGEBALL CHAMPIONSHIPS 2024
女子の部 準優勝、男子の部・混合の部 第3位
ADCアジアドッジボール選手権
男子優勝、女子準優勝

国内の登録数や海外での競技成績等、これまでの積み重ねが継続し、順調に推移しています。一方で、成果の評価とリスクの大きさに関する認識や、未完成のままの要素に対する見通しなど、事業の方向性や事業同士の繋がりのイメージの共有不足から、議論がかみ合わず、検討が進まない事例も増えています。

そこで、これまでの代表的な意見や疑問として4つを挙げ、そこに対する説明という観点から、主要な事業を組み立てる年と考えました。

①なぜマルチボールを導入

全く異なる種目をなぜ事業内に取り入れるのかという疑問は、導入の開始以降、断続的に届く疑問です。個別の回答も行っていますが、今回はN Fの役割という視点から改めて整理しました。

まず、私たちは、ドッジボールにおけるN Fの役割を、

- ・ 日本で暮らす「あらゆる人」がドッジボールを楽しめる機会の提供
- ・ ドッジボールに関する市場の拡大=利害関係者の拡大

⇒これらを通じて、国の発展（公益）をもたらすこと、と定義しました。

そして、これは、全てのスポーツ団体の使命として、スポーツ・インテグリティの確立 ≒自律の追求 を伴つていなければいけません。

これを両立するには、時には既成事実も疑い、意識的に検証できる場が必要です。

この点において、多くの点でシングルボールと対照的な特徴を持つマルチボールの存在は、未完成に見えることも承知で、ドッジボールの本質を見つめ直し、双方にとって、変えた方が良いこと／変えてはいけないこと、を検討するために最適な環境と判断しました。

既存のシングルボール関係者からの視点では、自分が身につけたものがルールなのか、それともそこに込められた理念なのかを考える機会にもなります。

だから、どちらも推進します。

ただし、全てはJ. D. B. A. としてシングルボールに関する実績に自信があるからできることです。

ゴールデンカントリーと評された日本の導入は、基本的にポジティブな影響をもたらすと考えており、効果も生まれていますが、リスクも当然あります。

やはり共感できないと考える方や、余裕がない、自信を持てない方へ両方の対応を求めるものではありません。

また、検討のためにもう少し詳しく知りたいという場合は、別途調整し対応します。

②世の中に知られていない

協会外部への広報活動や普及の取り組みに関する考え方を問う声もたびたび届きます。こちらに関しては2025年度は転換点を迎えており、次のような取り組みを計画しています。

コナミスポーツとの連携イベントを通じた広報

コナミスポーツ管理施設
全国27会場33回の教室(5月～3月)
※2024年度は19会場21回。

↓
日本協会の担当作業

- 講師役の代表選手の調整
 - 前面に出す選手
 - 育成する選手
- 効果的な宣伝内容・共通目標の検討
- プログラムの整備・共通化(アスリート委員会)



コナミスポーツの担当作業

- 自施設の場合：コナミスポーツクラブ会員への案内
- 周辺の全小学校への案内
- 地元メディアへの告知

↓

双方

- 2025年度：大阪府内での施設対抗イベント（マルチボール）
- 開催地の都道府県協会との調整
- 地域社会の課題抽出



中期的な展望

- 公益性を考慮した目的を示し、支援企業を募る。
- 広域な共催事業への発展

↓

2020年度計画への記載以降は停滞が続いた後、2024年度内から評価が一変し、全国的に拡大しました。

多数の管理施設・自社施設を所有するコナミスポーツとの連携により、広範囲に渡る認知度の向上を見込める他、適性を持った選手たちの活躍の場の広がりや、海外チームと対戦した経験の地域への還元、地元協会との接点拡大等、工夫次第で公益性と普及の両立を期待できます。

③全国大会の価値の点検と整備

最大の事業である全国大会に関しては、時期を問わずさまざまな立場からの意見が寄せられます。

主に競技会としての質の向上に関する意見と、事業としての価値観や運営に関する意見に大別して対応を進めます。

競技会としての質の向上

こちらに関しては、課題や目標、必要な取り組みがある程度見えているため、内容の一層の充実を図ります。

審判員（競技委員会）

30年を経てもA級が揃わない大きな課題継続

- 必要人数を満たすまでのロードマップ作成
- ルール・テキストブックの改訂と中央研修会の充実

(9ブロック10会場250名／スポーツ振興くじ助成事業申請中)



指導員（指導委員会）

通報相談内容も踏まえ、暴力・ハラスメントについて定期的に考える仕組みづくりと、資質向上に向けた取り組みの充実

- 更新講習会の充実：対面及びオンデマンドでの実施（10月～1月）
- B級指導員テキスト：改訂作業

全国大会の価値観とあり方

一方で、事業としての価値観の共有や、それに対応した整備は遅れています。2025年度はこれまでの振り返りを行い、それぞれの要素の今後の優先順と方向性を示します。

主な検討内容

会場：固定と移動のメリット／デメリットの検証

スポンサー：既存の協力企業との関係性と、新たな企業への提案内容の共有

規模：選手層の年代の推移・地域的な変化から、役割に合わせた4大会の配置

実行委員会：協会内での位置づけ・構成の最適化

④国際事業の価値と事業構造

性質上、①で示したマルチボール種目に関しての考え方とも一部重複しますが、国際事業という点から、その価値や、継続リスクに関する疑問の声も寄せられます。この声に関しては次のように考えます。

まず、現・代表チームの目標は、**あくまで参加権利を勝ち取った国際大会（2025世界大会サウジアラビア※WD主催／マルチボール／10月予定）での優勝**です。（国際委員会）

3月募集・4月1次審査・5月2次審査・6月結果公表・7～9月合宿を経て、派遣を計画しています。



スポーツ振興基金助成事業
株式会社日本スポーツ振興センター
(申請中)

スポーツ振興基金助成事業

ただし、海外諸団体の不安定な動向は今後も続くと予想され、それは今後の大きなリスクと考えます。そこで、各団体のパワーバランスに関係なく、選手たちの活躍の舞台を確保できるよう、新たに目標を設置します。

・国際試合経験審判員の増加目標の設置（国際委員会・競技委員会）

	国内開催大会	海外開催大会
シングルボール	100名（4月栃木開倫杯、9月千葉国際大会等）	5名（台湾・香港での大会への派遣等）
マルチボール		5名（10月サウジアラビア）

日本の欠点の一つとして、海外で見本とされる程の審判技量の高さに反し、国際試合をジャッジした経験を持つ審判員が少ない点が挙げられます。仮に対等な機会があれば、活躍できる審判員は選手よりも多い可能性すら秘めていることから、各団体の動向に左右されない安定性の実現を目指して、積極的な募集と増加を図ります。

なお、他事業との価値の比較に関する疑問の声に関しては、国内背景にインバウンド増がある環境において、国際事業の潜在的な価値はむしろ高まっていくと考えます。しかしながら、情報の偏りや立場により、優先順位の差が大きく、その公益性が伝わりにくい事業もあります。そのため、幅広く経験を共有した上で事業構造を検討できるよう、派遣元の都道府県数の拡大を目指し、その進行状況を踏まえ、2027年度を目途に両委員会の再編を予定しています。

参考 主な国際団体との現在の関係性

WD (WDA) : 正式加盟中。今回の派遣の後に、発展の可能性を見定める。

WDBF : 未加盟。情報収集を継続し、比較検討する。

ADC : 正式加盟中。

ここまで説明した以外の事業や会議体、各全国大会事業に関しては次ページ以降に記載しています。

2025年度全国大会事業

- 全国大会は、例年のとおり4大会となります。
- 3月春の大会及び10月の全日本総合選手権はスポーツ振興基金助成事業として申請しています。

	日程	大会名	場所
①	8/17(日)	第34回夏の全国小学生ドッジボール選手権	群馬県高崎市 高崎アリーナ
		<ul style="list-style-type: none"> 都道府県予選代表 小学生48チーム1000名。 初開催。同一会場での3年連続開催の1回目。3年間の共通目標に関する検討も進める。 	
②	10/12(日)  スポーツ振興基金助成事業 独立行政法人日本スポーツ振興センター	2025J. D. B. A. 全日本総合選手権	石川県金沢市 いしかわ総合スポーツセンター
		<ul style="list-style-type: none"> U15（中学生）部門を継続。中学生～社会人9ブロック52チーム（32チーム+20チーム）800名 前日のイベント等により、県外参加者計1000名以上を目指す。 	
③	12/7(日)	第12回全日本女子総合ドッジボール選手権	滋賀県大津市 滋賀ダイハツアリーナ
		<ul style="list-style-type: none"> 滋賀県連続開催。 2024年度より、56チームへ拡大。隣接する大学への協力依頼など、新たな関係を試す。 	
④	2026/3/29(日)  スポーツ振興基金助成事業 独立行政法人日本スポーツ振興センター	第35回春の全国小学生ドッジボール選手権	福岡県福岡市 福岡市総合体育館
		<ul style="list-style-type: none"> 福岡市での連続開催。4年連続予定の3回目。 夏と同様、都道府県予選代表小学生48チーム1000名。 	
		※4つの全国大会は、引き続き全てオンライン上でもライブ配信します。	

専門委員会単位の事業／会議

主に年間を通して行う、専門委員会単位の定期的な事業や会議に関しては次のとおりです。

こちらも、特に前半のページで示した、協会内外からの意見を踏まえながら進めます。

●競技委員会

- 公式ルール＆審判テキストブック改訂 4月1日発刊
- 中央研修会
 - 7月より実施 ※B級認定会はその後の日程で実施。 2024年度と逆。
- A級審判員認定会
 - 6月1日～6月14日 A級認定会申込 ／ 6月15日 認定会参加者 選考結果通知
 - 6月下旬 Zoomにてオリエンテーションを実施
 - 8月～（各全国大会）評定

●指導委員会

- 養成講習会 B級指導員テキストの改訂作業。
- 更新講習会 対面（関東地域内で調整中）及び、オンデマンドにて実施。各100名。

●普及委員会

- ドッジボール体験会・教室イベント※ヤマダイ（株）賞品協賛
 - 9ブロック × 1回=計9回（任意）
- DA関連事業
 - 認定事業・レベルアップ事業（東・中・西。他の開催事業と合わせて開催）
 - 活用事業（ブロック普及部長からの相談に応じて実施。各ブロック1回を基準）

●アスリート委員会

- オンライン会議 6月・10月・12月
 - i)モラル向上と啓発について ii)メディカルサポート iii)アンチドーピング iv)教室向けプログラム
- 主に外部委員：既存事業の観察（必要に応じて調整）

●広報 広報紙 第16号・特集号作成 2月

●理事会6回・評議員会2回／6月末・2月末～3月上旬予定

●加盟団体説明会 1回／6月予定